

# 0さんの想いを考える

社会福祉法人神戸あゆみの会 森井計智

## 0さん

- ▶ 自閉スペクトラム症
- ▶ 52歳 男性 施設入所支援利用歴20年
- ▶ 1つの建物（3階建て）に32名で生活
- ▶ 個室、居室には机とベッド、タンスが設置
- ▶ 母、弟の3人家族
- ▶ パニック時は椅子や机を投げる、他者をつきとばす、大声と自傷行為がある

## これまでのOさん

▶ 1日の流れ	7 : 0 0	起床
	8 : 0 0	朝食
	1 0 : 3 0	午前作業
	1 2 : 0 0	昼食
	1 3 : 3 0	午後作業
	1 5 : 0 0	ティータイム
	1 6 : 0 0	入浴
	1 8 : 0 0	夕食
	2 0 : 0 0	ティータイム
	2 1 : 0 0	就寝準備
	2 3 : 0 0	就寝

▶ 環境の変化に弱い

- 作業がなくなった
- 行事が行われる
- 機会が故障して入浴できない e t c . . .

▶ 何をしたいかわからない

- 1日の中で何も無い時間が多い
- 何も無い時にする事がない
- 支援員が本人の不安を見過ごし続けている危険性

▶ 先の見通しがつきにくい

- 何をいつまですれば良いのか
- カレンダーや時計等の認識力を誤認している
- 支援員によって言う事が違う

## ▶ パニック

- 2～3日に1回は大きなパニックがある
- パニックになる時は、環境に変化があった時や何もしていない時が多い
- 5分～15分ほどでおさまる

## ▶ パニックへの対応

- 支援員が側について落ち着くまで待つ
- 写真や文字で不安感を軽減する取り組みはしていたが、改善にはつながらなかった
- パニックを本人の特性にしてしまっている

# サービス管理責任者としての対応

## ▶ 人と障害への理解を深める

- 他法人と連携し、改善事例を徹底的に学ぶ機会をつくる
- 本人の意思を考え直す機会をつくる（事例検討会の実施）
- 障害をもつ人を見る事を知る（支援員の価値観を壊す）

## ▶ 職員に汎化させる

- 現場支援員とともに学んでいく
- コアメンバーが中心となって現場全体に広めていく
- 記録、情報の共有化を徹底的に行う

## ▶ 現場支援員が主体となって分析する

- 積極的なトライ&エラーからエビデンスを構築する
- 支援員全体としての成功体験にしていく
- 成功体験を共有し支援員の自信とやりがいにつなげていく

## 対応をとおして分かった事、成長した事

- ▶ 支援員全体として、本人の理解力が分かっていた、そのため本人が意思を形成したり表現する事ができにくい状況であった
- ▶ 他法人の取り組みを学ぶ事で支援員の引き出しが圧倒的に増えた
- ▶ 本人の意思はどうか、を常に考える姿勢が芽生えた (当たり前からの脱却)
- ▶ サービス管理責任者だけ、担当支援員だけでは成功できない事が分かった
- ▶ 本人の意思を実現するために大切な事は「ひと」だという事が気づけた

## 今のOさん

- ▶ 本人の理解できると思っていた写真ではなく「イラスト」で提示することで落ち着く場面が増えた
- ▶ 作業が中止になった場合でも本人は作業を行う事で安心感もてるようになった
- ▶ 旅行や外出、行事の際は、自室だけでなく共有スペースにも情報提示する事、また外出中や行事中に行う事を具体的に提示する事で見通しがある程度出来るようになった
- ▶ 手持無沙汰の時間にパズル等の自己ワークを取り入れ、何もする事がない時間を少し減らす事によってパニックの回数が減少した
- ▶ 笑顔が増えた

そして・・・



嫌なことを嫌と訴える事が出来る  
ようになった



## サービス管理責任者として

- ▶ 自分自身が出来る事には限界がある、チームとして利用者さんの意思決定支援を行う際に、サービス管理責任者はまず「限界がある」という価値観を汎化させる必要がある
- ▶ 1人の人間が決定する怖さを理解し、他者の意見に全員が耳を傾けられるような会議や意見交換を行う事が重要
- ▶ 自分自身の知識や経験を伝えると共に、常に他者の意見を取り入れながらアップデートしていく